

成熟白内障手術症例における年齢別の術前検査と術中操作

および術後成績の解析

1. 研究の対象

2018年4月1日から2021年9月30日の間に岩手医科大学附属病院にて白内障領域を専門とする術者が白内障手術を行った成熟白内障症例を対象とします（予定対象症例数200例）。

*成熟白内障とは、水晶体全体が混濁し、かろうじて手の動きが分かる程度などまで視機能が低下した白内障を言います。

2. 研究期間

研究実施許可後～2022年3月31日

3. 研究目的・方法

近年、白内障手術の安全性は向上し年間約100万例以上の手術が施行されるようになり、難症例の成熟白内障まで進行する症例は減少していますが、成熟白内障症例がなくなったわけではなく、今後も成熟白内障の手術は必要となります。成熟白内障が難症例となる原因は、手術顕微鏡での水晶体嚢の視認性が低下することにより、連続円形前嚢切開術の完遂が難しくなることで、連続円形前嚢切開術が不完全になることは、術中および術後合併症につながります。また、若い方の成熟白内障は水晶体が柔らかく、高齢の方は水晶体が硬いなど、年齢によって特徴が異なる傾向があります。

そこで、本研究は成熟白内障の背景因子や術前検査を診療録から、術中の手技、合併症を術中ビデオから後ろ向きに調査して年齢群毎に比較することにより年齢別の傾向を明らかに死良好な手術手技を行うための知見をまとめます。本研究により、成熟白内障手術時の安全性の向上および合併症の軽減が得られることにより、術後患者の視覚の質の向上に貢献できると考えられます。本研究は、研究成果をまとめ学会や論文で発表する予定です。

4. 研究に用いる試料・情報の種類

診療録・術中ビデオより、年齢、性別、術前・術後の検査所見、術後合併症などを扱います。氏名等個人を特定できる情報は利用致しません。

研究に使用する情報はパスワードを設定したPCや鍵のかかった棚に保管し、外部への漏洩がないように最大限配慮致します。情報は2025年3月31日まで保管し、その後廃棄します。

5 . 研究費および利益相反

研究費は眼科学講座の講座研究費を用いて行われます。本研究に関わる研究者は、利害関係が想定される企業との経済的な利益関係（利益相反）はありません。

6 . お問い合わせ先

研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、研究のためにご自身のデータが使用されることを望まれない患者様もしくは患者様の代理人（ご家族の方等）の方は、下記の問い合わせ先までお知らせ下さい。研究への使用を望まれない場合でも、診療へ与える影響は一切ありませんし、不利益を生じることはありません。

問い合わせ窓口：研究事務局：亀井 翔太

岩手医科大学医学部眼科学講座

〒028-3695 岩手県紫波郡矢巾町医大通 2-1-1

TEL：019-613-7111（内線 6582）

FAX：019-907-6763

E-mail：kms.29.96imu@gmail.com

研究責任者：岩手医科大学医学部眼科学講座 木澤 純也

-----以上